世界を視野に地域から始めよう

宮崎大学
University of Miyazaki

2024年度「学習カルテ：アンケート」のまとめ

宮崎大学　学生の生活

2025

宮崎大学　学び・学生支援機構　教育企画部門

Teaching & Learning mgt

はじめに

ここに 2024（令和６）年度に実施しました「宮崎大学 学習カルテ：アンケート」のまとめである「宮崎大学 学生の生活」をお届けします。

2025 年９月

宮崎大学　理事（教育・学生担当）
学び・学生支援機構長

藤井　良宜

宮 崎 大 学　学 生 の 生 活　２０２４

－目　次－

1	アンケートの概要	1
2	学習	3
3	入学時の状況	7
4	生活	8
5	正課外の経験	10
6	学習環境	12
7	大学院生の生活	13

1

アンケートの概要

協力してくれた学生の皆さん

初年次アンケート

2023/4/3 ～2023/6/30

学部	学科	専攻・コース	回答数	回答率
教育学部	学校教育課程	小中一貫教育コース	106	93.0
		教職実践基礎コース	15	100.0
		発達支援教育コース	22	100.0
医学部	医学科		64	64.0
	看護学科		53	86.9
工学部	工学科	応用物質化学系	66	100.0
		土木環境工学系	54	98.2
		応用物理工学系	57	100.0
		電気電子工学系	60	98.4
		機械知能工学系	60	95.2
		情報通信工学系	63	92.6
農学部	植物生産環境科学科		50	100.0
	森林緑地環境科学科		47	92.2
	応用生物科学科		51	92.7
	海洋生物環境学科		30	96.8
	畜産草地科学科		51	100.0
	獣医学科		32	100.0
地域資源創成学部	地域資源創成学科		90	98.9
合計		（在籍数：1,043）	971	93.1

最終年次アンケート（学士）

2023/12/1～2024/3/31

学部	学科	専攻・コース	回答数	回答率
教育学部	学校教育課程	小中一貫教育コース	93	96.9
		教職実践基礎コース	9	81.8
		発達支援教育コース	18	85.7
医学部	医学科		7	5.1
	看護学科		16	26.2
工学部	旧学科		19	55.9
	工学科	応用物質化学プログラム	47	85.5
		土木環境工学プログラム	26	76.5
		応用物理工学プログラム	30	68.2
		電気電子工学プログラム	21	40.4
		機械知能工学プログラム	31	62.0
		情報通信工学プログラム	46	82.1
農学部	植物生産環境科学科		39	67.2
	森林緑地環境科学科		25	51.0
	応用生物科学科		46	82.1
	海洋生物環境学科		24	70.6
	畜産草地科学科		54	93.1
	獣医学科		22	75.9
地域資源創成学部	地域資源創成学科		67	80.7
合計		（在籍数：1,017）	640	62.9

２年次アンケート

2024/ 2/ 1 ～2024/5/17

学部	学科	専攻・コース	回答数	回答率
教育学部	学校教育課程	小中一貫教育コース	89	92.7
		教職実践基礎コース	11	100.0
		発達支援教育コース	20	90.9
医学部	医学科		19	19.4
	看護学科		20	33.3
工学部	工学科	応用物質化学プログラム	59	96.7
		土木環境工学プログラム	37	64.9
		応用物理工学プログラム	50	83.3
		電気電子工学プログラム	22	37.3
		機械知能工学プログラム	36	58.1
		情報通信工学プログラム	67	91.8
農学部	植物生産環境科学科		42	80.8
	森林緑地環境科学科		33	62.3
	応用生物科学科		52	92.9
	海洋生物環境学科		29	87.9
	畜産草地科学科		44	74.6
	獣医学科		22	66.7
地域資源創成学部	地域資源創成学科		87	92.6
合計		（在籍数：1,039）	739	71.1

最終年次アンケート（修士）

2023/12/1～2024/3/31

学部	学科	専攻・コース	回答数	回答率
教育学研究科	教職大学院	教職実践開発専攻	17	100.0
看護学研究科	修士課程	看護学専攻	4	50.0
工学研究科	修士課程	環境系コース	40	95.2
		エネルギー系コース	48	68.6
		機械・情報系コース	21	46.7
農学研究科	修士課程	植物生産環境科学コース	10	100.0
		森林緑地環境科学コース	4	57.1
		応用生物科学コース	4	25.0
		海洋生物環境科学コース	19	90.5
		畜産草地科学コース	1	100.0
		農学国際コース	4	44.4
医学獣医学総合研究科	修士課程	医科学獣医科学専攻	3	50.0
地域資源創成学研究科	修士課程	地域資源創成学専攻	7	87.5
合計		（在籍数：260）	182	70.0

対象者数：　3,359名
回答者数：　2,532名
回答率　：　75.4%

調査に参加された学生の皆様
調査実施に尽力いただいた皆様
深く感謝申し上げます。

2024年度「学習カルテ：アンケート」について

学生の学習状況及び学習ニーズを正確に把握し、その結果を在学中の学習支援の充実や教育改善に活用することを目的として、全学生を対象に、初年次、２年次、最終年次と在学期間中に３度の学習調査を実施しています。

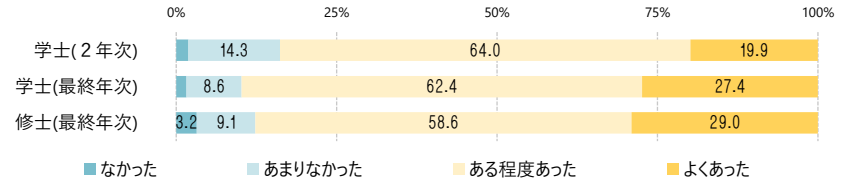
実施方法：ウェブによるアンケート

質問項目：

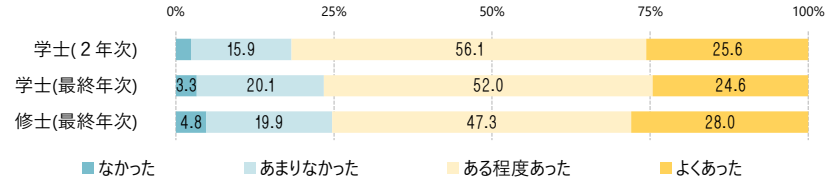
初年次（４月）	２年次（10月）	最終年次（10月）
入学時 ・高校時代の学習 ・進路選択時の情報活用 ・志望理由 ・入学時の意欲 ・オープンキャンパス **教育目標** ・教育目標の理解 ・アドミッションポリシーの理解 ・ディプロマポリシーの理解 ・カリキュラムポリシーの理解 **留学** ・入学前の留学、渡航経験 ・在学中の留学の意識 **住居** ・住居形態 **生活時間** ・読書 ・ボランティア **進路・就職** ・準備・活動の開始時期 ・進路・就職の希望先 ・進路・就職の所在地 ・就職希望先の条件	**学習の機会** ・地域課題 ・データ活用 **大学の授業** ・授業が重視する項目 ・授業の工夫 **経験の有用性** ・インターンシップ ・海外留学・海外研修 ・英語で行われる授業 **学びのふり返り** ・成長の実感 ・身に付いた能力 ・学びの環境 ・大学の運営 ・他者への推奨 ・シラバス活用 **生活時間** ・授業 ・事前・事後の学習 ・サークル活動 ・アルバイト **生活** ・アルバイト ・朝食 ・読書 ・友人 ・サークル ・ボランティア **地域への関心** ・興味・関心の推移 ・卒業後に希望する所在地 **学習環境への満足度**	**学習の機会** ・地域課題 ・データ活用 **大学の授業** ・授業が重視する項目 ・授業の工夫 **経験の有用性** ・インターンシップ ・海外留学・海外研修 ・英語で行われる授業 **学びのふり返り** ・成長の実感 ・身に付いた能力 ・学びの環境 ・大学の運営 ・他者への推奨 ・シラバス活用 **生活時間** ・授業 ・卒業論文・修士論文 ・事前・事後の学習 ・サークル活動 ・アルバイト **生活** ・アルバイト ・朝食 ・読書 ・友人 ・サークル ・ボランティア **地域への関心** ・興味・関心の推移 ・卒業後に希望する所在地 **学習環境への満足度**

授業の工夫

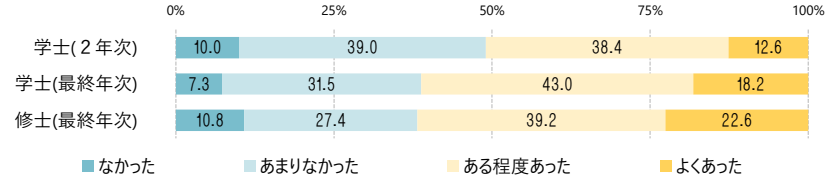
● 理解がしやすいように教え方が工夫されている



● 授業時間外に行うべき学習が指示される



● 課題などの提出物にコメントが付されて返却される



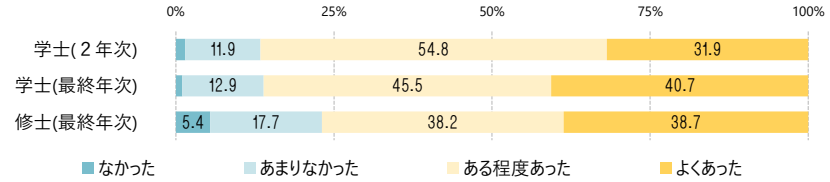
● 学生の理解度に応じたわかりやすい授業がおこなわれていると認められる。

授業時間外に学習するよう教員から指示される実態がうかがわれる。単位の実質化という点でこの活動は重要である。

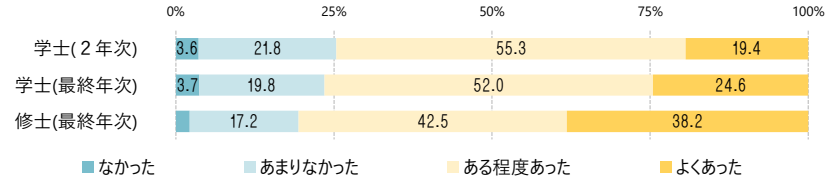
半数を上回る学生が提出物へのコメント返却を経験している。教員からのフィードバックは学習動機を高めると考えられており、指導上の工夫としてとくに重要である。

学習の機会

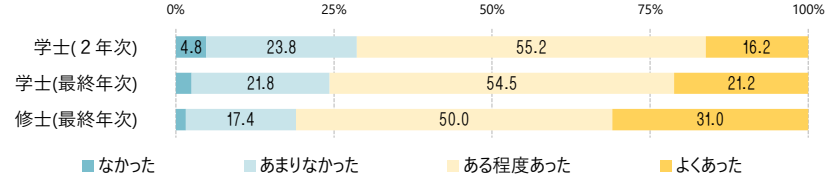
● グループワークやディスカッションの機会がある



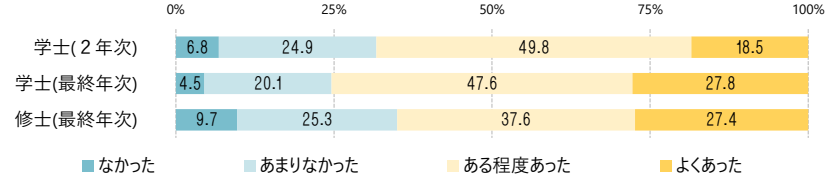
● 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある



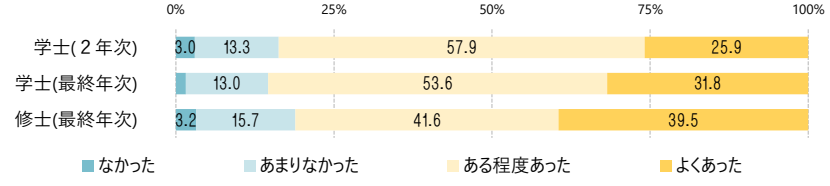
● クリティカルシンキングを鍛える機会がある



● 過去に学んだことを実社会に応用する機会がある



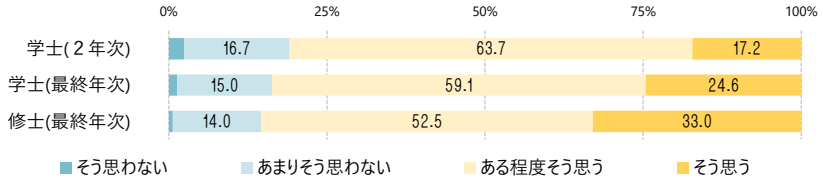
● 専攻以外の知識を学ぶ機会がある



● 教員によって様々な指導方法が工夫され、学年の進行とともにより積極的にアクティブラーニングが採用されていることがうかがわれる。

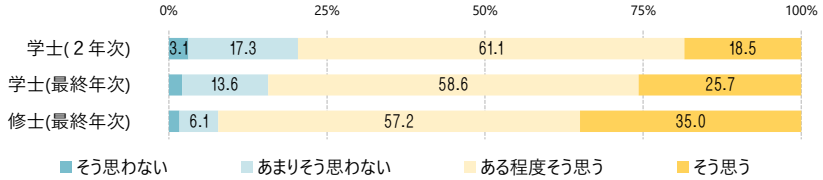
学習へのコミットメント

● 授業はやりがいや挑戦しがいのある内容である



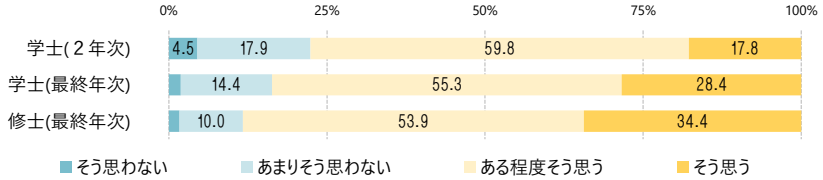
● 学年の進行とともに教育内容が高度になり、学生がそれに満足している様子がうかがわれる。

● 卒業時までに身につけるべき知識や能力を意識して学習している



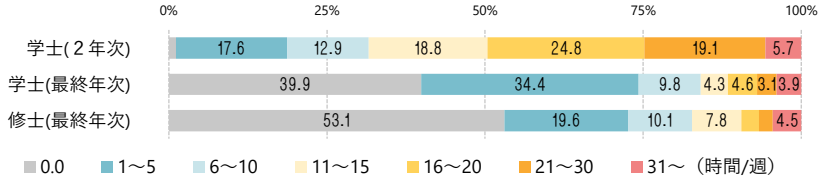
● 学生はディプロマ・ポリシーに書かれた知識や能力を意識して学習をしていることがわかる。それによって、学習目標に照らしながら効果的に現状の自己分析ができる。

● 大学で学ぶことが自分の自信につながっている



学生の学習時間

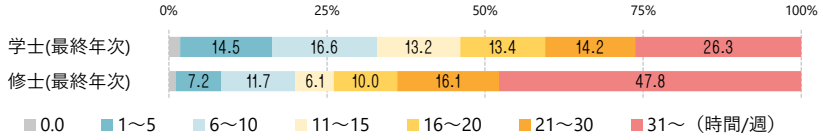
● 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）



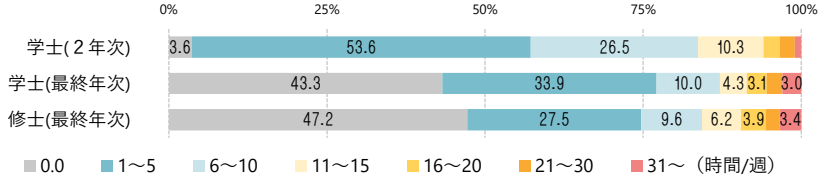
● 授業への集中力を維持し、教育効果を高めるという観点からは、1週間当たりの授業への出席の時間数は6時間以上20時間以下が望ましい。

最終年次は、卒業研究中心の生活にシフトしている。修士課程でその傾向は強まり、半数近くが週31時間以上論文執筆に費やしている。

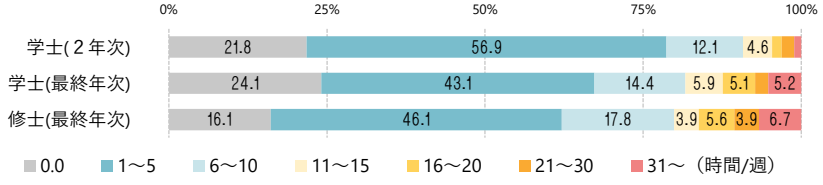
● 卒業（修士）論文、研究、制作

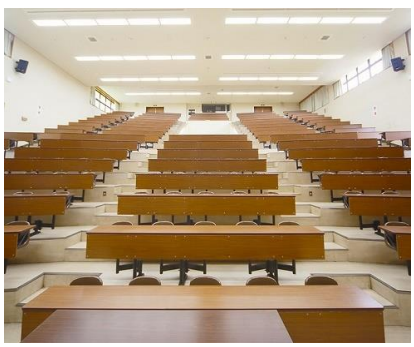


● 予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）



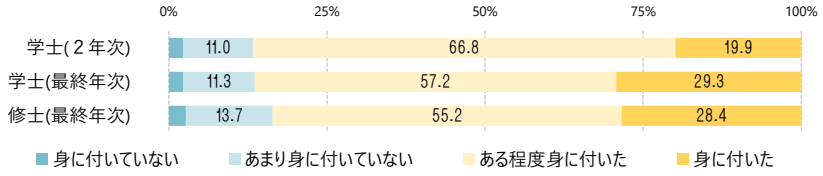
● 授業と関連しない自主的な学習



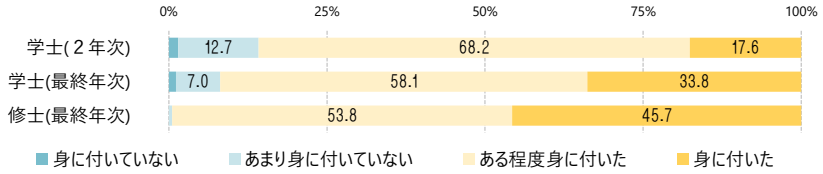


身に付いた知識・能力

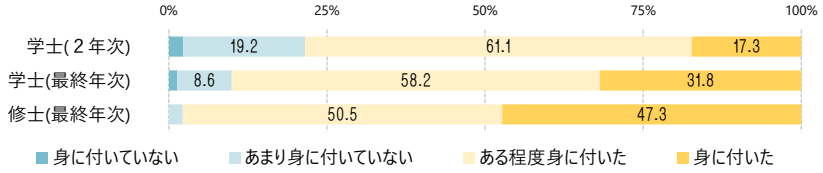
● 一般教養



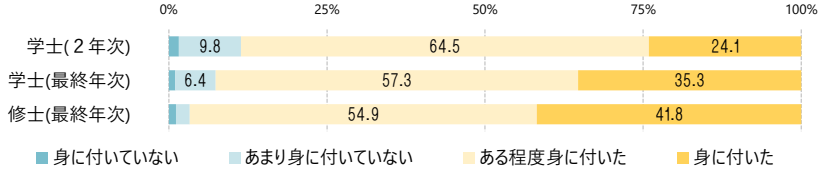
● 専門分野に関する知識・理解



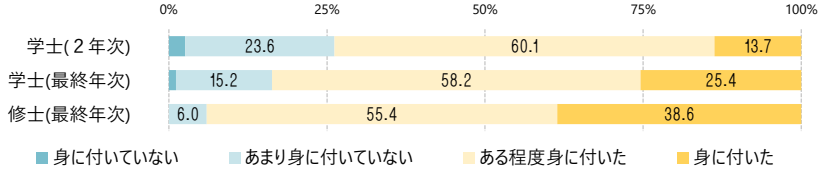
● 文献・資料を収集・分析する力



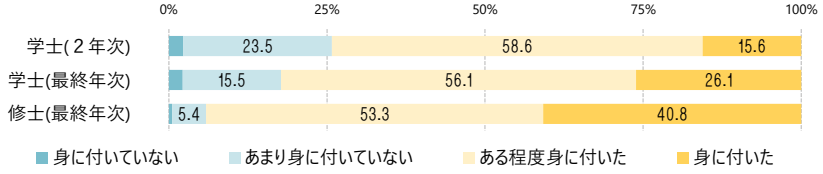
● 聞く力や相手の考えを理解する力



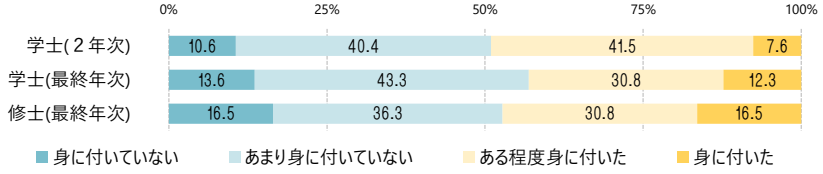
● 論理的に文章を書く力



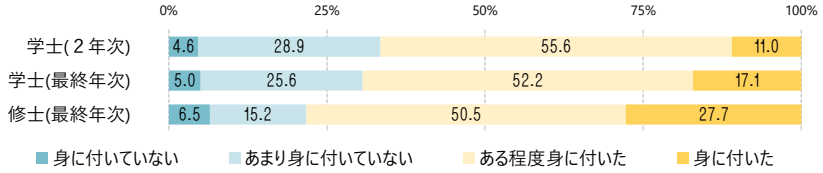
● 人に分かりやすく話す力



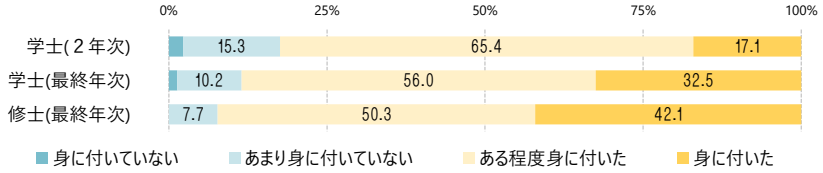
● 外国語を話す力



● 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能



● 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観



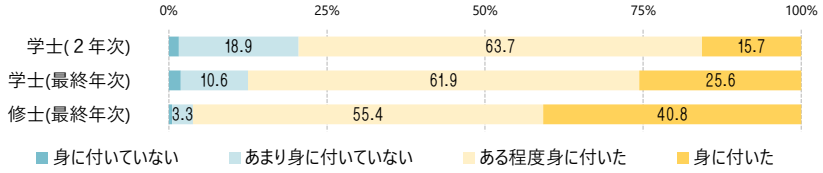
● 教養的知識に比べ、専門分野ではより顕著に知識が豊富になっている。

● 授業を通して様々な能力が身についたことがわかる。多くの項目で8割を超える学生が「そう思う」「ある程度そう思う」と答え、学年の進行にともない肯定回答が顕著に増加している。

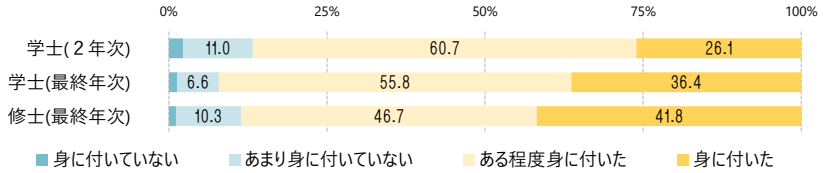
ここで取り上げるジェネリックスキルは、試験による測定が困難なものが含まれる。そのため、本調査によって学生の成長過程を把握することには大きな意味がある。とくに聞く、書く、話すに関するコミュニケーション能力は、他の資質・能力の基盤として重要である。科目間の効果的な連携によって、こうした基礎的能力が学年とともに向上していることがうかがわれる。

● 本学は、「地域のニーズに応える人材育成・研究」を推進する大学として、全学生を対象に数理的思考力を身に付けた人材の育成を目指している（宮崎大学データサイエンス・AI教育プログラム）。

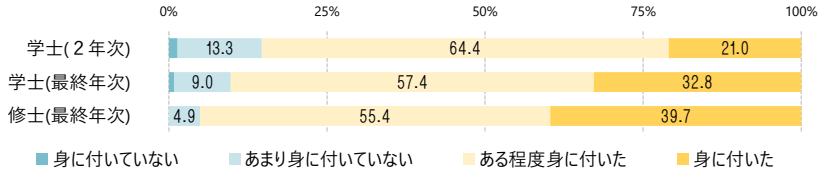
● 問題を見つけて解決方法を考える力



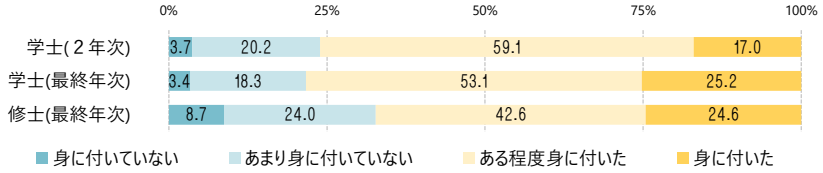
● 他者と協働する力



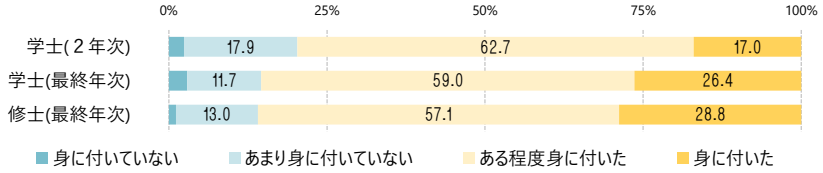
● 幅広い知識、ものの見方



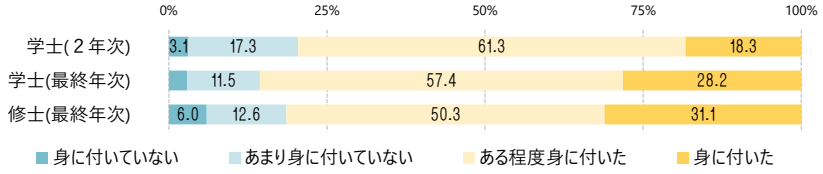
● 異なる文化に関する知識・理解



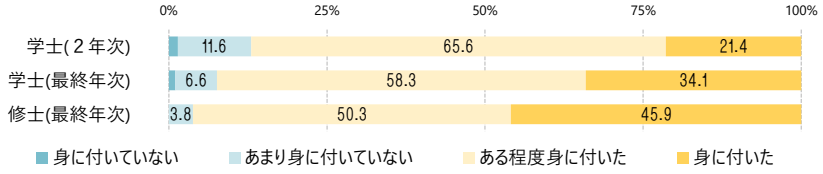
● 人間性・社会性・国際性（社会に貢献できる力）



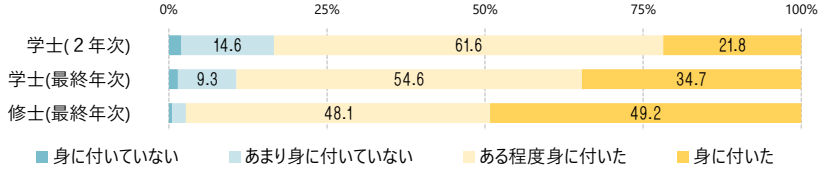
● 自然や社会とかかわりながら現場から学ぶ態度



● 思考力・判断力



● 主体的に学ぶ力



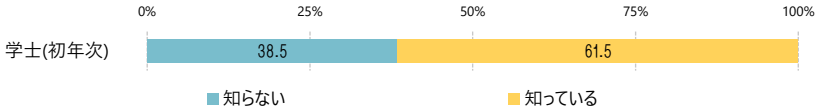
● 判断力、課題解決力などの習得は学年の進行にしたがって向上が認められる。これはアクティブラーニング採用の頻度に応じて自分自身で考える姿勢が身に付いていることを示唆する。

● 予測困難な時代の到来に備えるため、学生自身が目標を明確に意識し、主体的に学修に取り組むことがこれまで以上に重要になる。さらに、学習の成果を自ら適切に評価し、次の学びに踏み出す自律的な学修者となることが求められている。現場から学ぶ態度や、主体的に学ぶ力の項目について、多くの学生が「身に付いた」と回答しており、学修者本位の教育がおこなわれていることをうかがうことができる。

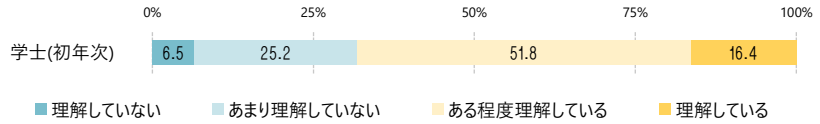
3 入学時の状況

教育目標に関する理解

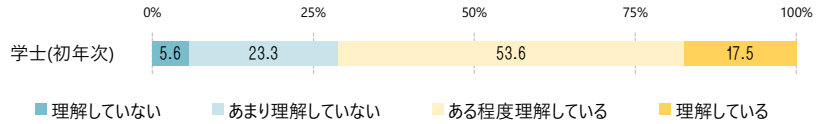
● 宮崎大学が育成する力を知っているか



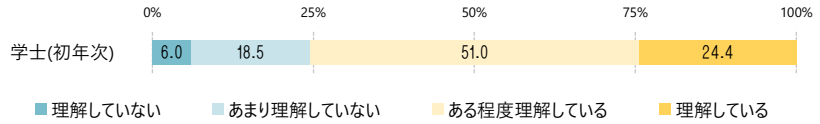
● 自分の学科・課程のディプロマ・ポリシーを理解しているか



● 自分の学科・課程のカリキュラム・ポリシーを理解しているか



● 自分の学科・課程のアドミッション・ポリシーを理解しているか



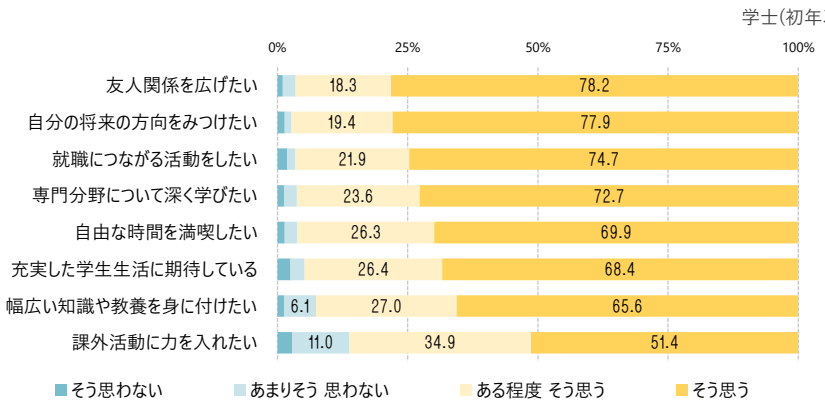
● 宮崎大学では、社会性、主体性、コミュニケーション能力、課題発見・解決力、教養と専門に関する知識・技能の育成に力を入れている。こうした教育目標に関する初年次生の認知度は61.5％と低い。

学科・課程レベルの３つのポリシーについて、「理解していない」「あまり理解していない」学生が30％程度存在している。学習目標の明確化は学習意欲を高め学習を継続する上で重要となる。

※ ディプロマ・ポリシー
＝卒業要件・学位授与の方針
カリキュラム・ポリシー
＝教育課程の編成・実施の方針
アドミッション・ポリシー
＝入学者受入・選抜の方針

入学時の希望

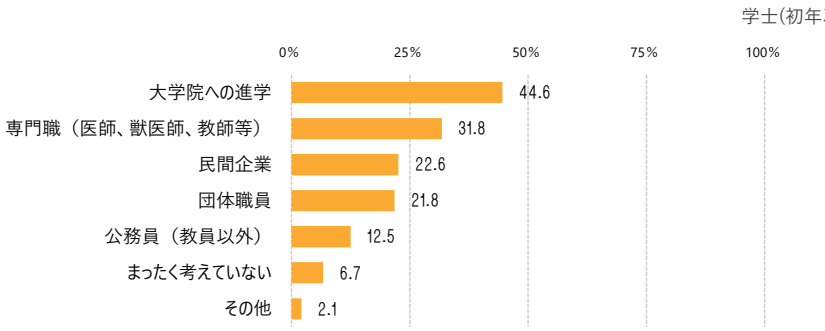
● 入学時の意欲



● 学習、進路、課外活動等に対する初年次学生の高い期待をうかがうことができる。

卒業後に希望する進路

● 卒業後の進路の希望（複数回答）

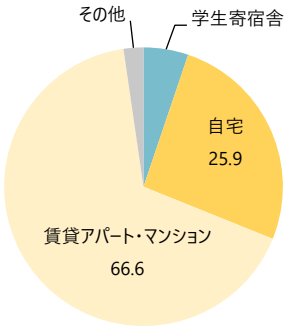


● 入学時点で卒業後の進路を意識している学生が大多数を占める。

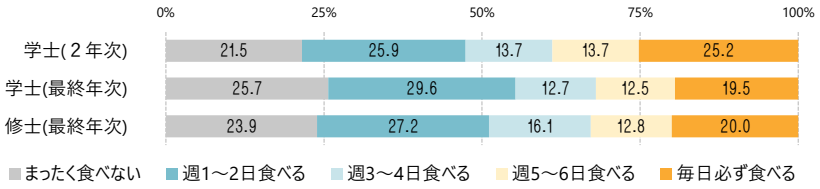
生活の実態

● 住居形態

学士(初年次)

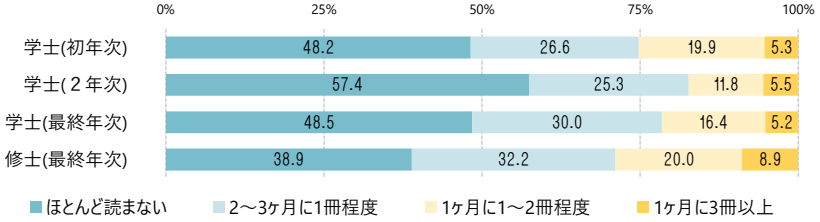


● 朝食摂取



● 約半数が1週間の朝食摂取が2回以下と答え、学年をとおして大きな変化がみられない。

● 読書習慣

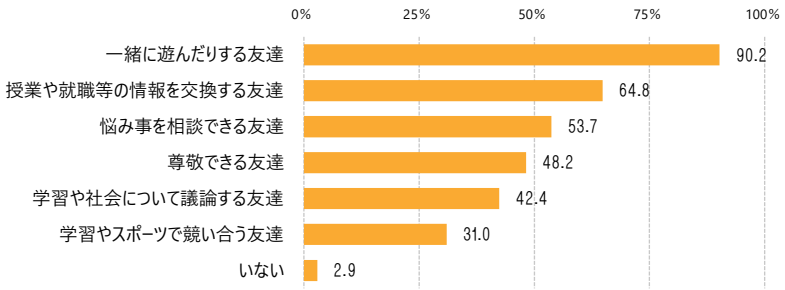


● 読書は大学教育に基礎を与える重要な習慣だと考えられるが、2年次の6割が「ほとんど読まない」と回答するなど、その実態は危機的状況にある。

交友関係

● 大学内の友人（複数回答）

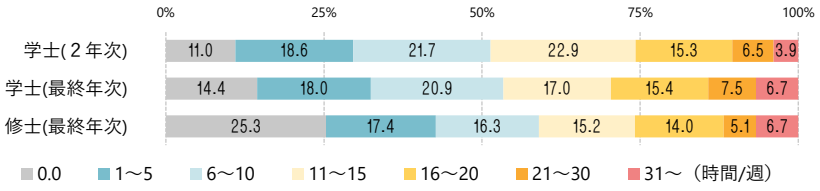
学士(２年次)



● 交友関係の広がりは認められるものの「悩み事を相談できる友達」「尊敬できる友達」「学習や社会について議論する友達」を持つ学生は多いとは言えない。

アルバイトの実態

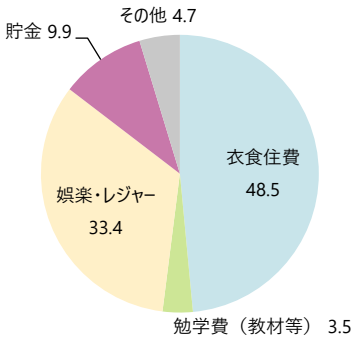
● アルバイトの時間（授業期間中の１週間）



● 多くの学生がアルバイトをしており、3割の学生が１週間に16時間以上従事している。

● アルバイト収入の主な使途

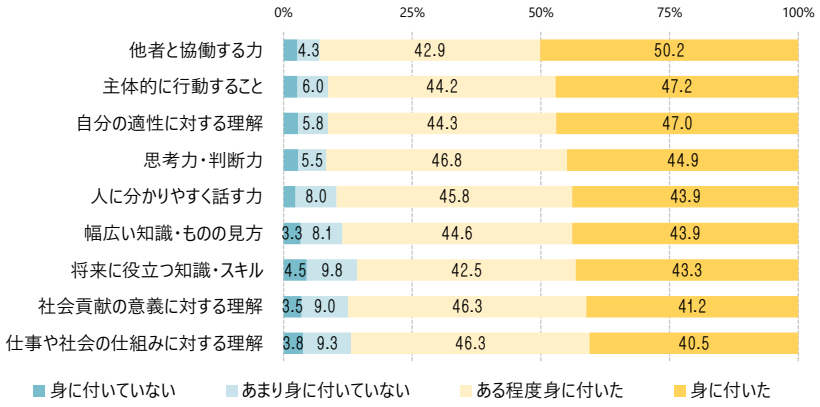
学士(最終年次)



● アルバイト収入の使い道は衣食住、娯楽・レジャーが中心である。

● アルバイトを通じて身に付いた能力

学士(最終年次)



● 学生がアルバイトから多くの刺激を受けている。ここから、アルバイトが学習の機会としても機能していることがうかがわれる。

生活費 について　※参考資料

出典：日本学生支援機構（JASSO）「令和４年度学生生活調査」

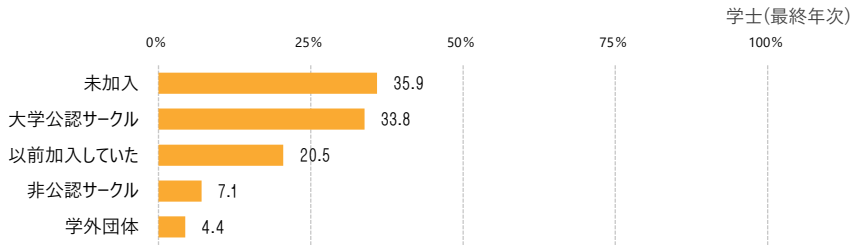
収　入（年間）				
区分	宮崎大学生		全国国立大平均	
	自宅	下宿・アパート	自宅	下宿・アパート
家庭から	504,700	781,500	532,200	1,067,300
奨学金	211,700	523,400	227,300	362,400
アルバイト	175,200	207,600	390,300	340,600
定職収入	1,700	3,800	110,200	62,600
計	893,300	1,516,300	1,260,000	1,832,900

支　出（年間）				
区分	宮崎大学生		全国国立大平均	
	自宅	下宿・アパート	自宅	下宿・アパート
修学費	67,500	54,100	51,400	48,600
課外活動費	2,500	20,000	26,700	27,600
通学費	36,200	46,900	95,000	17,500
食費	50,000	275,500	94,100	271,400
住居・光熱費	-	450,100		480,500
保健衛生費	34,200	37,600	42,300	49,800
娯楽・し好費	65,800	97,500	135,400	136,500
その他	87,800	110,900	153,600	161,200
計	344,000	1,092,600	598,500	1,193,100

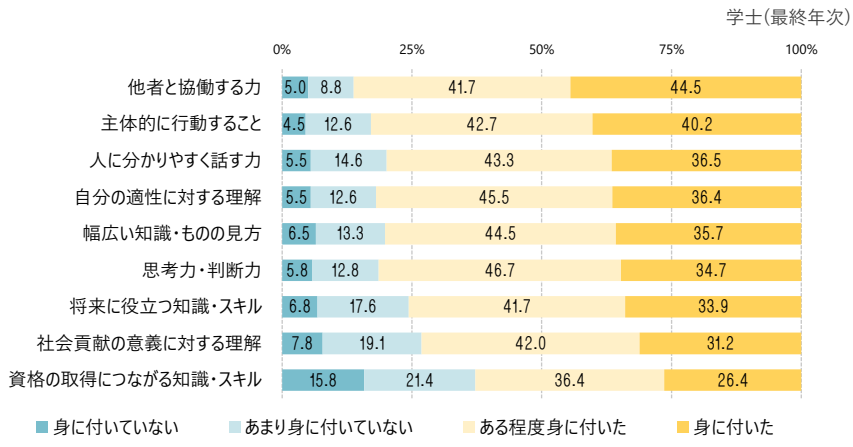
注）授業料等の学校納付金を除く

サークル・同好会

● サークル加入状況（複数回答）



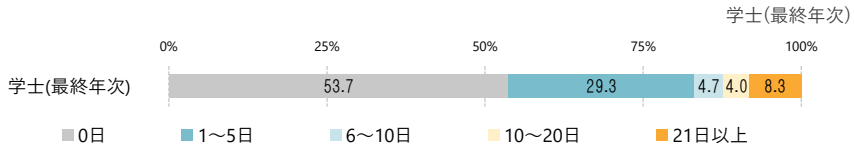
● サークル活動を通じて身に付いた能力（経験者のみの割合）



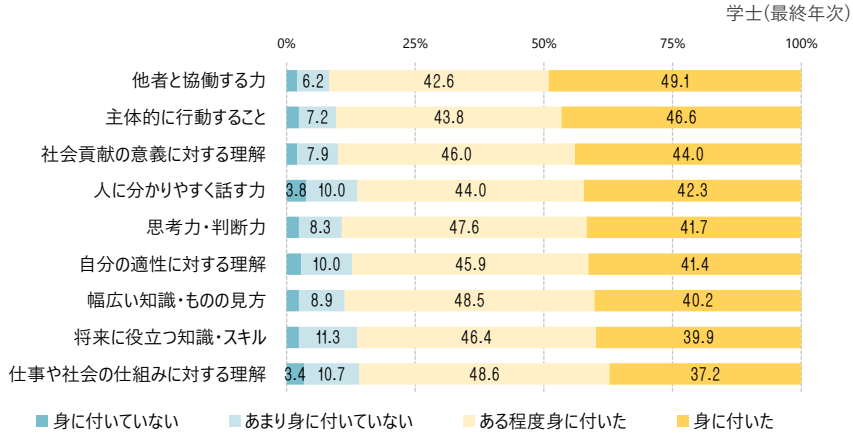
● サークル活動の経験者は、そこから多くの刺激を受けており、学習の機会としても充実している様子がうかがえる。

ボランティア活動の経験

● ボランティア活動の総日数



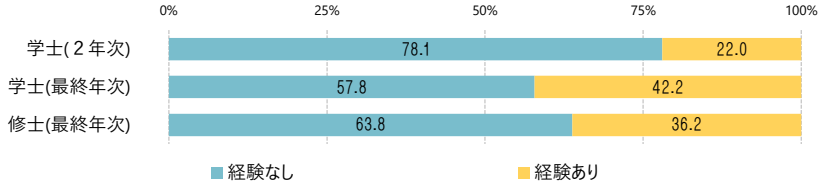
● ボランティア活動を通じて身に付いた能力（経験者のみの割合）



● ボランティア活動の経験者は半数以下と少ないが、ボランティア活動を経験した学生は様々な能力が身についたと答えている。

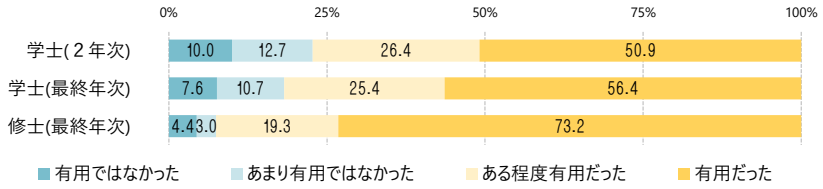
インターンシップの経験

● インターンシップ（5日間以上）の経験はあるか



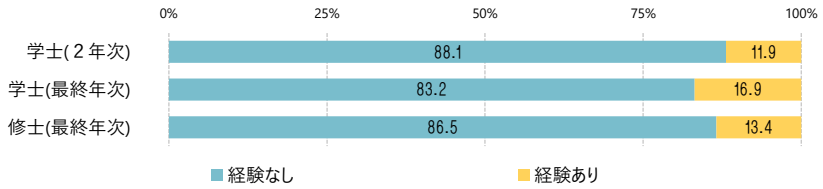
● インターンシップ（5日以上）経験者は半数に満たないが、経験した学生はそれが有用だったと非常に高く評価している。

● インターンシップ（5日間以上）はどの程度有用だったか（経験者のみの割合）



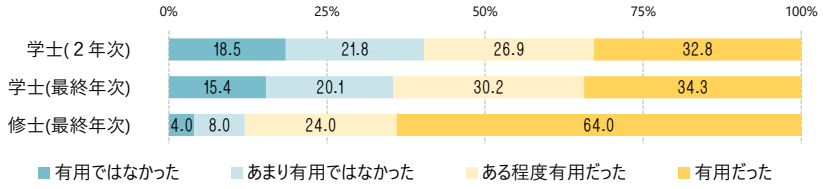
海外留学・海外研修の経験

● 海外留学・海外研修（短期も含む）の経験はあるか



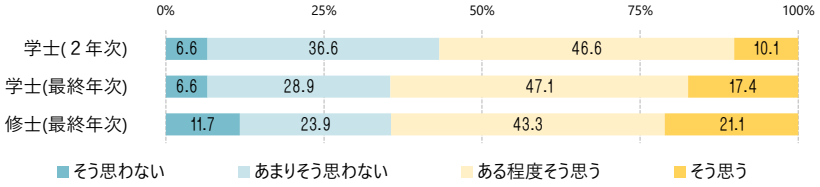
● 海外留学・海外研修を経験した学生は少数であるが、経験した学生は有用であったと回答している。とくに修士最終年次で顕著である。

● 海外留学・海外研修（短期も含む）はどの程度有用だったか（経験者のみの割合）



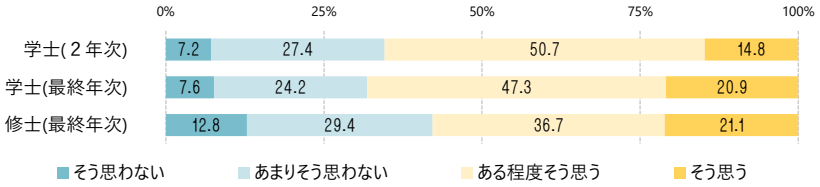
学習環境に関する評価

● アンケート等の学生の意見を通じて大学教育は良くなっているか



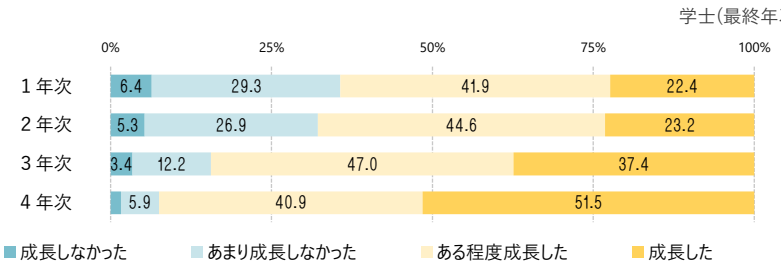
● 本学では、在学生対象の学生調査「学習カルテ：アンケート」をはじめ、各授業の学びを振り返る「授業ポートフォリオ」、卒業生対象の「卒業生アンケート」等を実施し、教育の改善に活用している。

● 大学の運営に対して提案する機会が学生に与えられているか



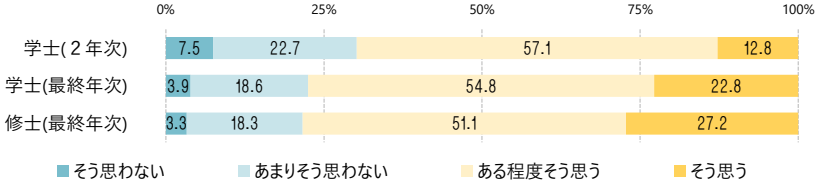
● 本学では、「学生参加のFD研修会」や「学生連絡協議会」などを通して、学生と教員の意見交換会を実施し、教育環境の改善に役立てている。

● 各学年においてどの程度成長できたか

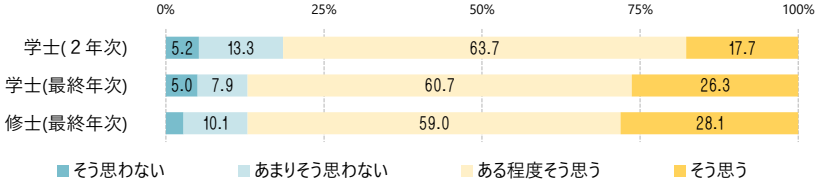


● 学年が進行するにつれて成長の実感が高まっている。

● 大学進学を検討している知人や親戚がいたら宮崎大学を勧めるか



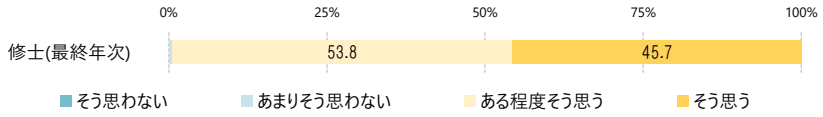
● 授業・学習支援・生活支援を含む宮崎大学の学習環境に満足しているか



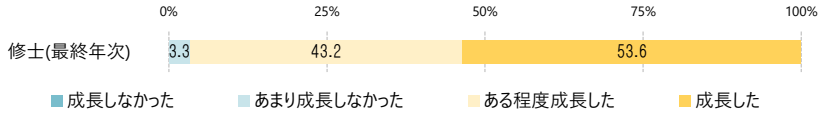
7 大学院生の生活

研究について

● 高度な専門知識を応用する能力が身についた



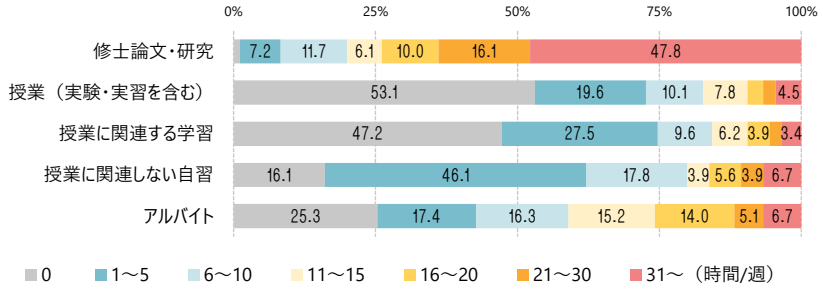
● 大学院在学中に成長したと感じるか



● 高度な専門知識を応用する能力は、99.5%が身に付いたと回答している。自由記述回答でも「非常に濃い学びの時間だった」「文句の言いようがないくらい学ばせてもらった」などと、充実した大学院での学びを振り返るコメントが見られた。

大学院生の生活時間

● 大学院生の生活時間（1週間平均）



● 修士課程では修士論文・研究と授業に関連しない自習の時間が長い点に特徴がある。

大学院生の生活 について　※参考資料

● 大学院生の生活費

出典：日本学生支援機構（JASSO）「令和４年度学生生活調査」

収　入（年間）

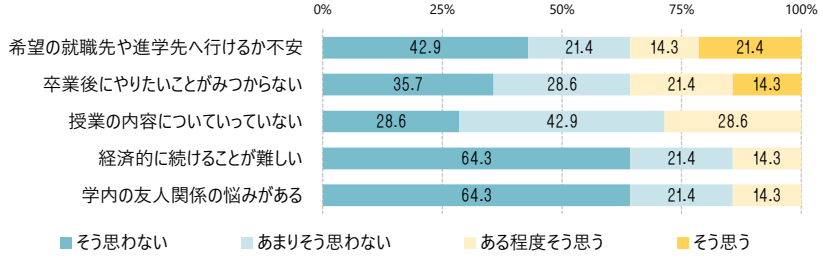
区分	宮崎大学 大学院		全国国立大平均	
	自宅	下宿・アパート	自宅	下宿・アパート
家庭から	315,000	676,900	498,600	1,033,400
奨学金	512,000	447,000	308,000	447,600
アルバイト	185,000	203,000	403,400	367,200
定職収入	60,000	107,800	231,700	161,900
計	1,072,000	1,434,700	1,441,700	2,010,100

支　出（年間）

区分	宮崎大学 大学院		全国国立大平均	
	自宅	下宿・アパート	自宅	下宿・アパート
修学費	20,000	16,300	43,500	35,700
課外活動費	17,500	13,500	10,500	14,500
通学費	130,000	55,800	110,400	25,300
食費	55,000	322,500	153,000	350,800
住居・光熱費	－	311,000	－	545,000
保健衛生費	40,000	30,400	45,600	51,900
娯楽・し好費	110,000	152,500	150,400	172,900
その他	70,000	159,300	167,600	178,600
計	442,500	1,061,300	681,000	1,374,700

注）授業料等の学校納付金を除く

● 大学院生の不安や悩み



宮崎大学
学び・学生支援機構
教育企画部門

〒880-2192
宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地
☎ 0985-58-7161